

オオバギボウシ

ギボウシの名前は欄干の擬宝珠の形に由来する

若い花茎の先端、苞とつぼみの塊が擬宝珠に似る



- ①全草 ②総状花序(多数の苞がつき、その腋に花がつく) ③若い花茎の先端部(苞とつぼみの塊が擬宝珠に似る。先端の形態は様々ある)
④葉(ギボウシ属の識別は、葉の形態に違いがある。オオバギボウシは40㎝と大きく、卵円形。コバギボウシは20㎝と小さく、基部は葉柄に流れる。イワギボウシは基部に暗紫色の細点が多数ある。トウギボウシは粉白色で、先は鋭く尖り基部は心形) ⑤秋に黄葉する葉
⑥蒴果 ⑦熟した種子

花の中心にある W 字型の斑紋は同じものがない

人間の指紋のように、カタクリの花の斑紋は同じものがない。自然の神秘である

Erythronium japonicum

花
随
想
148P



- ①花(下向きにつく) ②葉(普通2個つき、長い柄は地下に埋まる) ③シロバナカタクリ(非常に稀で、一説に10万株に一本ともいわれている) ④鱗茎(地下深くにある) ⑤蒴果 ⑥蒴果が裂けて種子が見える。⑦種子(付属体にはアリの好む脂肪酸が含まれ、アリの巣に運ばれた後捨てられ、発芽する) ⑧花の中心にW字型の斑紋があり、この斑紋には同じ形がない。⑨花の断面
- 種子の発芽から花が咲くまで7～8年かかる。

ヤマユリ

園芸種「カサブランカ」の交雑親のひとつになったユリ



- 世界の野生ユリの中で最も豪華な花を咲かせ、ユリの王ともいえる存在だ。ヨーロッパの人々の心を奪い、花卉の黄色い条線から金のユリ (gold lily) と呼ばれる。 ①花(数個から多いもので20個もつく) ②鱗茎(黄白色で苦味がない) ③蒴果 ④葉
- 近畿地方以北の本州に分布するが、東北に多く、新潟・山形県境では国道沿いに延々と群生する姿は圧巻だ。

ササユリ

日本固有種 和名は笹百合

名前の由来は、葉が笹に似ることによる

Lilium japonicum



①②花(白色から淡紅色まで変化がある) ③若い蒴果(内部に多数の種子) ④熟した蒴果(内部は3室に分かれ、種子が整然と積まれている)
⑤種子(薄く、風に乗って運ばれる) ⑥葉(笹に似る・名前の由来) ⑦鱗茎